

Catch the Future !

研究推進部長 丹生 憲一

11月18日(木)「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型)」の一環として、研究推進部、土元・丹生で福井県立丸岡高校を訪問しました。今回は、まずその報告を…。

同じ年に文科省の「グローバル型」に指定を受けた丸岡高校は、大正2年創立、創立110年の伝統校です。かつては地域の進学校だったそうですが、福井市内の私学に押されて定員割れになることも多く、生き残りをかけて進路指導に取り組むと同時に、地域との協働によって魅力ある学校づくりを進めています。サッカー部、剣道部、新体操部が強化部に指定され、サッカー部は全国大会の常連です。来年度、制服を変え男子も選択すればスカートがはけるそうです。二つのコース(みらい共創コース、スポーツ探究コース)を新設します。いずれも、探究活動で培った学習を進路に活かしていこうとしているようでした。

坂井市には、丸岡高校以外に二つの高校があり、市内三校がすべて文科省事業の指定を受けています(坂井高校=プロフェッショナル型、三国高校=地域魅力化型)。また、福井大学から、教職大学院の学生3人が週2回来校し、授業の補助、面接練習などの入試対策、部活動まで関わってくれているとのこと。福井県のこの地域にかけける期待を感じました。また、さかいケーブルTVで学校紹介番組が流されています。(丸岡高校HPで視聴可)

丸岡高校は文科省の指定を受ける前から「M project」というプログラムを持ち、「進路的な学び」「時事問題探究」「地域との協働探究学習」の三つのカテゴリーについて「自分の興味関心のある分野について、自らが課題を設定し、学び、仲間と課題を共有し、考え、まとめ、発表する」ことを目標にしています。学年裁量で進めてきたプロジェクトが5年前から地域との課題研究活動を深め、文科省の指定を受け、「地域の人と触れ合い」「地域のことを自分のこととして捉えられるように」というねらいが加わったということでした。このあたりの経緯も、本校の丹BALに似たところがあり、その進捗状況と指定後の予定を話したいと思い、訪問したわけです。

1学年では「地域の中に飛び込んで、地域活性化の需要を直接探り、その課題と解決方法を提案する」という活動をしています。昨年度はコロナ禍の影響で短縮されたようですが、「新聞記事から丸岡(福井)に関する記事を探して、要約し意見・感想を書いた」後、「四つの地元企業から話しを聞いて、新標品を開発してその魅力をポスターにまとめてPRした」とのこと。あえて「丸岡城」「丸岡そば」など、だれでも知っている観光資源でなく、「地元企業」にフォーカスすることで「自分たちで地域の魅力を発見する力を育て、地元への興味関心を高めることを狙った」とのことでした。本校での「丹波栗」「黒豆」「丹波竜」…というマンネリ化の状況を打破するヒントとなりました。今年は少し内容を変えていたようで、18日には「ようこそ先輩」と称して、クラスごとに話を聞いていました。

2学年では「SDGsの考え方が、地域でどのように関わっているか?」を考え、昨年は「清掃ボランティア」を全員で実施しました。最終的には「坂井市SDGsキャッチフレーズ」を高校生で考えてほしいという依頼を受け、地域の人たちと意見を交わしながら、生徒の考えたことばがキャッチフレーズになったということです。ここでも今年の内容を変えていたようで、坂井市議会議員10人に、自分たちが地域の課題と考えること、地域での提案を話して助言を受けていました。断片的にしか聞いていませんが、「丸岡そばを使ったインスタントラーメン」を提案している野球部員などが見られました。

3学年では「ボランティア」「プレゼン」「小論文」「学力」の4つの分野を半期に分けて全員が選択しています。「学力アップ」を取る生徒は活動記録シートに志望校、受験科目などを明記した上で一時間の目標を立て、目標に達したかどうかを毎時振り返るという内容でした。これを選択する生徒は全体の4割程度で、最も多いのはプレゼン、次が小論文です。いわゆるAOから勝負する生徒が多いようです。教頭先生を含めて、全職員が固定メンバーをもち、朝、昼、放課後と毎日面接指導をしているとのことでした。この日も、CF(Catch the Future=「総合・探究」)の時間に廊下で面接練習、または面談している姿が見られました。

地域からの要請、誘いが多く、市や地域が企画しているイベントに参加して、高校生目線での意見を言う機会が与えられています。丸岡町では「きゃっチャリ」というレンタサイクルで丸岡町の魅力を知るというイベントがあり、2年生が11月2日と17日の2回に分けて回ってきたということでした。部活動単位でも丸岡町の観光マップをESSが作り、実際に丸岡城の受付に置いてありました。美術部は、バスターミナルのピクトグラムをデザインしたり、「古城マラソン」のポスターを描いたり、商店街の空き店

舗にシャッターアートを施したり・・・と活躍しています。地域協働部は、福井県立大学生、大学教授とともに地域を SNS(Facebook) で PR するなど、地元の商店街の活性化のアイデアを考案しています。日常の活動の中で、丸岡そばをつかったそば打ち練習をし、そば打ち選手会などに参加しているとのことでした。本校でもインターアクトや調理部が活動しているように、部活動が地域に入っていくことが一番継続性を保てそうです。

ともに、事業指定最終年を迎え、指定後を見据えた企画、計画を立てなければならぬ時期になりました。丸岡高校は「地域みらい留学」を進めるということで、国内の他地域の高校に「留学」する制度を導入するとのこと。丸岡町は、織田信長の命を受け、柴田勝家が甥の勝豊に築かせた丸岡城(写真左)を囲む城下町です。明智光秀が10年ほど近くに住んでいた称念寺(写真右)というお寺があります。福井県といえば恐竜。すぐ近くに恐竜博物館もあります。「織田」「明智」「恐竜」と聞くだけで柏原・丹波との縁を感じました。海外研修の見通しが立たない今、国内研修先の候補の一つにしたいと思っています。



「田舎力」発揮！

12月11日(土)「田舎力甲子園」(主催：福知山公立大学 後援：内閣地方創生推進事務局・京都府・福知山市)がオンライン開催され、知の探究コース1年生の「丹波三宝(小豆・黒豆・栗)をすべて盛り込んだスイーツを食べたいと熱望していた高校生たちが試作品を作り続けたら和菓子職人と、外国人シェフを巻き込みだして地域活性化に向けて動き出した件」(藤原煌基、古江亮太郎、細見ちひろ、宮本葵、村岡琴葉)が見事「奨励賞」を受賞しました。発表内容は、題名を見たらネタバレするサスペンスドラマのような長いタイトルの通りです。これまでも、6種類ほど試作品を作っては Varuna 先生と一緒に食べて、改善策を練ってきましたが、11日にも新たに2つ試作してきていました。男子二人も「美味しい！美味しい！」と食べています。

北は北海道から、南は鹿児島まで、全国から73策の応募がありました。動画審査を通過した11策のファイナリストに残り、最優秀賞(1策)、優秀賞(3策)に次ぐ奨励賞(2策)に選ばれたのです。ちなみに1年生でファイナリストに残ったのは本校だけ。来年、再来年と3年連続出場して、最終的に最優秀を勝ち取ってくれればと願っています。おめでとうございます！

一緒にスイーツ開発に携わってくれた Varuna 先生、Thank you!

